

[くサイトへ戻る](#)

発見、エンジョイフィッシングレポート。 想定外の内容に我ながらツボる

2020年2月17日・ヘラ釣り

最初のブログに書いたエンジョイフィッシングレポートですが、見つけましたよ。やはり紛失のままでは気分が悪いのですよね。ほとんど期待しないまま自分の記事だけ抜き始め、全く記憶にない文体に吹き出してます😅。

見開き2ページで広告も写真もたくさん入ってますから字数が少ないんです。すぐ読めちゃいます。優等生の作文的なノリで、四半世紀前の自分は別人ですね。その数年後に始まる「トーナメント、」が、どれだけチョーシこいてるかわかるというか変化したというか、ギャップが面白いです。

当時は手書き入稿でした。へら鮎社指定原稿用紙に書いてFAXという流れ。どこをどう直されたかはもう覚えてませんが、何回か噛み付いた記憶はあるので、当時はそれなりに気にして確認していた筈です。ですので、基本的には自分の文体そのままだと言えます。内容的にはたいしたことないですが、今の自分にはむしろ「トーナメント、」より素直に読めます。のちほどサイトを更新します。

ひとつ気がかりなのはまだ辿り着いてない最終回です。「トーナメント、」同様、自分でヤメると言い出したんだよなあ。。そういう人生だと暗示しているような気がしないでもないですが、それでも生きています、としか言いようがないです。なあ、ハッシー？

彼は底釣りゼミを早速読み返したそうですよ（笑）たったいまメッセンジャーで来てました。

追記：

最終回まで確認しました。やはり唐突に終わってました。しかも10月号で（笑）ま、「トーナメント、」ほどの悲壮感は無いですね。引き留められた記憶もないですし。ページ数が偶数だったのも幸いしてると思います。印刷物を作ったことのない方なら「ん？」だと思いますが、奇数だと見開きが崩れますから大変なんです。

「トーナメント、」の終了が決まった段階で、5ページから4ページに減らされたのもそのへんの事情なんですね。編集部としては、僕が約束の12月号まで書くことを放棄する可能性を認識しており、奇数は任せられなかったのです。

文体にはかなりの揺らぎが見られます。ですます、だ、であるを意図的に混ぜるのが好きな僕ですが、当時はただ単にコントロール出来てないように感じますね。ただ、先ほど書いた優等生っぽさはしだいに薄れていき、「トーナメント、」以降、現在に通ずるスタイルの発現も感じられます。自分で自分を分析するのは不思議な気分ですが、当時の自分には未来が見えていない訳ですからね。後付けしかないのです。



見ると、初めての光景に、私よりも興奮気味でした。「このパターンは絶対釣れるゾ」と妻に言うと、興奮が頂点に達したのか、力み過ぎていきなり仕掛けを頭